



前号のおさらい：金の一目均衡表と平均足

発行日：2014/4/25



前回4月11日発行のテクニカル分析において、「NY金は雲の上限も上昇していくなかで、雲から抜け出すことも難しくなってくる。抜け出せたとしてもすぐに基準線が控えており、一気に上昇するのは難しそうだ。雲の上限または基準線を越えられずに平均足が陰転したタイミングで戻り売りとなる。」と分析した。レポート記載後も上昇が続いたが、基準線に近づいたところで平均足が陰転すると昨日1268ドルまで下落した。4月1日の安値を割り込んだこと、雲の下に出てきたことでさらなる下落に注意したい。

TOPICS CCI (商品チャンネル指数) とは

CCIは、商品チャンネル指数(Commodity Channel Index)の略で、1980年にドナルド・ランバートが開発した指標。その名の通り、商品取引で使われ始めたといわれているが、現在は株式や為替、債券の分析にも広く使われているオシレーター系のテクニカル指標。CCIの計算式は以下の通り。

$$CCI = \frac{TP - MA(TP)}{0.015 * MA(\text{乖離率})}$$

$$TP = \frac{\text{高値} + \text{安値} + \text{終値}}{3}$$

$$MA(TP) = TP \text{ の } n \text{ 本単純移動平均}$$

$$MA(\text{乖離率}) = \text{乖離率の } n \text{ 本単純移動平均}$$

$$\text{乖離率}[i] = TP[i] \text{ と } MA(TP) \text{ の差分 (絶対値)}$$

通常nは14がよく使われ、ラインは-100%と+100%を使う。期間nは自分が適用したい銘柄の平均的なサイクルを観察し、その3分の1の期間を指定することをランバートは勧めている。また、上下ラインのパーセンテージも変更する。

CCIの考え方の基本は、値動きには一定のサイクルがあるということをもとに、とくに商品の場合は、季節的な循環変動が見られるという特徴がある。完全なサイクルが成立しているわけではないが、上下動のサイクルが相場で観察されることはよくあり、CCIはこのようなサイクルを前提として、商品価格や株価の売られすぎや買われすぎを判断する。

TOPICSs 金市場を一目均衡表と平均足で見よう

NY金はさらに下落か



NY金

NY金は昨日、直近安値を下回ったものの反転上昇して終わった。

CCIがマイナス圏にあるがマイナス100の手前で持ちこたえている。ここから上昇する可能性はあるが、一旦マイナス100を超えて下落してからでないとは上昇は厳しいだろう。さらなる下落に警戒したい。

東京金は一旦上昇するか



東京金

東京金はCCIがマイナス100から切り返してきており、4月23日の4220円が目先の底となりそうだ。ここから0ラインを超えて上昇する場合にはトレンド転換となり上昇が予測されるが、それまでは下落トレンドとなる。

CCIがマイナス100を上抜けたので、試しにまず買いを入れるのも良いだろう。その後ゼロラインを超えたときにはトレンド転換としてさらなる上昇を期待したい。

TOPICSs 他市場はどうか

東京白金は上昇へ



東京白金

東京白金はCCIがマイナス100を上抜けてきた。また、NY白金も昨日の取引でマイナス100を上抜けてきており、買いのチャンスだ。NYとほぼ同時にマイナス100から切り返してきたことでここからは上昇が予測される。

東京ガソリンは天井の可能性



東京ガソリン

東京ガソリンはプラス100ラインを割り込むもののすぐに転々上昇し、高値を更新している。ただし、CCIの数値は下落しておりダイバージェンスとなっているので、上昇トレンドも終わりを迎えるだろう。再びプラス100を割り込んだ際には下落となる可能性が高いだろう。

ドル円は上昇が継続か

ドル円



ドル円はCCIがマイナス100から上昇してきたもののゼロライン付近で足踏みし膠着している。ゼロラインよりも上にあるので上昇基調は続いているものと思われる。だがゼロラインを下回った場合には下落トレンドとなることに注意したい。

今週はCCI（商品チャンネル指数）を利用し分析した。

金市場はNYがまだ下落余地があるなかで、東京市場はマイナス100を上抜けしてきた。NYと東京の足並みが揃うまでは、東京金は下落に警戒したい。

東京白金はマイナス100を上抜けしてきた。NYも同様にマイナス100を上抜けしており、白金は一旦底を打ったと言えるだろう。

東京ガソリンはプラス100ラインの攻防となっているが、CCIの数値は下がってきており、ダイバージェンスが確認できることから下落に注意したい。

ドル円はCCIがプラス圏にあり一応上昇基調だと言える。マイナス圏になった場合には下落となることに警戒したい。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

発行元：株式会社コモディティ インテリジェンス
 〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
 会社電話： 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
 メールアドレス： kondo@commi.cc